

コラム

～日本の健康・世界の健康～

低・中所得国の非感染症

名古屋市立大学大学院看護学研究科 国際保健看護学 教授 樋口 優代

今回はまず、タイトルの意味を少し説明したいと思います。「低・中所得国」とは、かつて「開発途上国」と呼ばれていた国々に近い概念です。ただし、「開発途上国」にはネガティブな印象があるため、より中立的な表現として「低・中所得国」が使われるようになりました。これは世界銀行（国連の機関）による分類で、各国を一人当たりの国民所得に基づいて「高所得国」「上位中所得国」「下位中所得国」「低所得国」に分けたものを使っています。現在、「高所得国」は86か国で、それ以外の131か国が「低・中所得国」に分類され、世界人口の約75%がこれらの国々に暮らしています。次に「非感染症」についても触れておきます。肺炎や下痢症、マラリア、HIV・エイズ、結核などは、細菌やウイルス、寄生虫などによって引き起こされる「感染症」です。一方、「非感染症」とは、それ以外の疾患を指し、狭心症や心筋梗塞、脳卒中、がん、糖尿病、慢性呼吸器疾患、腎不全などが含まれます。日本では「慢性疾患」や「生活習慣病」と呼ばれることもあります。

低・中所得国の健康課題というと、感染症や低栄養、妊娠・出産に関連する問題を思い浮かべる方が多いかもしれません。実際、長らくそれらが主要な死因でした。現在も「低所得国」に分類される26か国（主にアフリカ）では、死因の上位10位のうち8つが感染症や周産期に関連するものです。ただし、残る2つ、すなわち死因の第2位と第3位は、非感染症である脳卒中と虚血性心疾患（心筋梗塞など）です。また、下位・上位中所得国では、新型コロナウイルス感染症を除けば、脳卒中と虚血性心疾患が常に死因の上位に挙げられています。現在、世界全体の死亡の約75%は非感染症によるものであり、世界保健機関（WHO）は、非感染症によって治療を受けられずに亡くなる人の約86%が、低・中所得国に集中していると報告しています。

非感染症対策では、予防が極めて重要です。もちろん感染症でも予防は不可欠ですが、非感染症は個人の生活習慣に加え、貧困、教育、住環境、労働環境、構造的な要因の影響を大きく受けるため、医療に加えて教育その他の社会制度、政策を含めた総合的な対応が求められます。また、非感染症の特徴の一つに、長期あるいは生涯にわたる管理が必要となる点があります。肺炎や下痢症、マラリア、寄生虫症などの感染症は、適切な治療により比較的短期間で回復が見込めます。結核は数か月に及ぶ治療が必要ですが、継続すれば治癒が可能です。（※HIV感染症については、現時点ではウイルスの完全除去は困難で、生涯の服薬が必要です。）一方、非感染症は「治す」より

も「共に生きる」病気が多く、適切なケアがなければ合併症や障がい、さらには死にいたります。したがって、医療制度や社会政策の整備が極めて重要となります。

このように、予防と長期管理の必要性が、非感染症対策を低・中所得国で困難にしています。急増しているにもかかわらず、「非感染症」という概念自体があまり知られていないことも一因です。以前このコラムで紹介した東ティモールは、独立当初は低所得国でしたが、2009年から下位中所得国となっています。独立以前から、子どもや妊婦の低栄養は大きな課題とされ、5歳未満児や妊婦の体重モニタリングは広く行われています。しかし、妊婦以外の成人が体重や身長を測る習慣はほとんどなく、血圧測定も限られています。公務員以外の「勤め人」が少ないといためか、職場健診の話もほとんど聞きません。実際には、過体重や高血圧の人が特に都市部の成人で増加しているようですが、十分に把握されていないのが現状です。そうした中で「突然死」は珍しくありません。家族の話を聞く限り、脳卒中や心筋梗塞が疑われるケースもありますが、本人も家族も、そんな病気の存在を全く意識していなかったのです。病気の存在や、肥満や高血圧がリスクであることを知らなければ、予防はできません。

加えて、低・中所得国では制度や政策が脆弱なため、総合的な対策が難しいという構造的課題もあります。例えば、非感染症についてある程度知られており、診断手段も普及している中所得国でも、高血糖と診断されても糖尿病の継続治療が困難な人は多くいます。治療を続けるための壁はさまざまです。知識不足だけではなく、治療費の高さ、近隣に非感染症の検査や治療ができる医療機関がなかったり機能していないなどがあります。これらは、以前紹介した「ラクのものがたり」（No.550、552参照）で赤ちゃんが下痢で亡くなった背景とも共通する課題です。また、「糖尿病は贅沢病ではないか？」という話題が日本でも出ることがありますが、非感染症は決して裕福な人だけの病気ではありません。実際には、貧困と強く関連しており、多くの研究がこれを示しています。非感染症では、病気の原因が個人の努力や生活習慣にのみ帰されがちですが、実際にはその人が置かれた環境が大きく影響します。「どうしてジェイソンは病院にいるの？」で、がらくた置き場で足にケガをして化膿してしまった少年の背景を考えましたが（No.543、548参照）、非感染症でも「健康の社会的要因」は極めて重要なのです。